

2003 . 9

# 白石区民のページ page

白石区インターネットホームページ  
<http://www.city.sapporo.jp/shiroishi/>  
白石区民公式サイト「shiroishi.org」  
<http://www.shiroishi.org/>

「本を直してるのよ」。のぞき込む子供たちに、少しかすれた声と穏やかな笑顔で話す人がいる。平成七年から本郷小学校の開放図書館でボランティア活動を続けている佐藤さんだ。週に二回学校に通い、主に破れた本の修繕を担当。児童とは友達のように親しく声を掛け合っている。

昭和六年、ニシン漁が盛んな増毛町で網元の家に生まれた。本好きな兄の影響で読書にのめり込んだ少女時代。夜中に本を読もうと布団に懐中電灯を持ち込んで母にしかられたこともあった。「落ち着きがなくてやんちゃでした」と笑う。その後、函館で結婚生活が始まったが、二十八歳の時に夫を事故で亡くす。幼い三人の子供を抱え、家計を支えるために懸命に働いた。「生活するだけで精一杯でしたね」と振り返る。そんな佐藤さんを解離性大動脈瘤という大病が襲う。六十歳の時である。人工血管の移植手術を受け一命は取り留めたものの、左の声帯が使えなくなつた。評判だった「きれいな声」も出なくなり、さすがに落ち込んだという。しかし、発声のリハビリを兼ねて人前に出ようと決意。活動場所として選んだのが、大好きな本がたくさん置いてある図書室だった。「子供たちに向かつて、気軽に声を掛けられるようになった」とボランティア活動の

さあこれから活動に出掛けるという時が一番幸せを感じるんです。

開放図書館や児童会館などでボランティア活動を続けている

佐藤 タヨさん (七十二)

(栄通在住)



今月の人

編集 白石区役所総務企画課広聴係  
☎003-8612  
札幌市白石区本郷通3丁目北1-1  
☎861-2400 内線224  
FAX860-5236

「効用」を話す佐藤さん。現在は、開放図書館のほか、同校の特別支援学級の授業や保健センターの乳幼児健診会場、児童会館などで絵本の読み聞かせもしている。また、二年前から本格的に学び始めた折り紙も子供たちに教えている。「カレンダーを見ながら活動日を確認することが好き。そして、さあこれから出掛けるという時が幸せ」と話す。地域のお祭りに顔を出すと、「タヨさんだ」と子供たちが駆け寄って来るといふ。その様子を温かく見守る同居中の息子夫婦。幼いころ、よくスキップして外を歩いていたという「おてんば娘」は「今が一番幸せなの」と笑った。